

女性によるみちづくり - 「公共事業」のあるべき姿の模索 -

大阪国道事務所 管理第二課 松本 沙矢花

1. はじめに

公共事業は、これまで社会資本の絶対量の不足から「つくる」側の論理が優先されてきた。しかし、ある程度整備が進んできた現在では、ストックを有効に活用し生活者の視点に立った、すなわち「つかう」側の論理で公共事業を考えていく必要がある。また、道路に関して言うと、自動車中心の道づくりが進められてきた結果、生活者や交通弱者への配慮が足りない部分があるのも事実である。

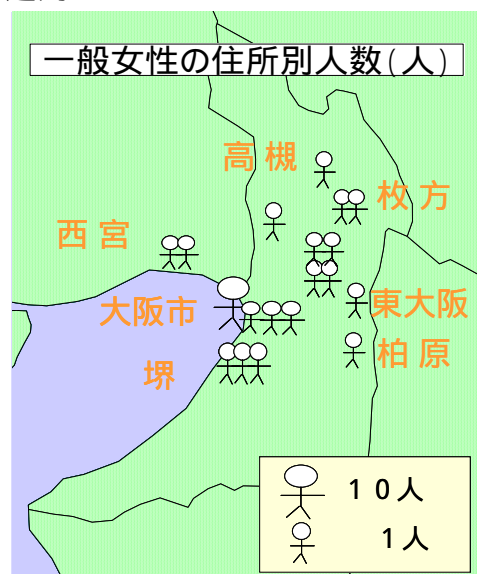
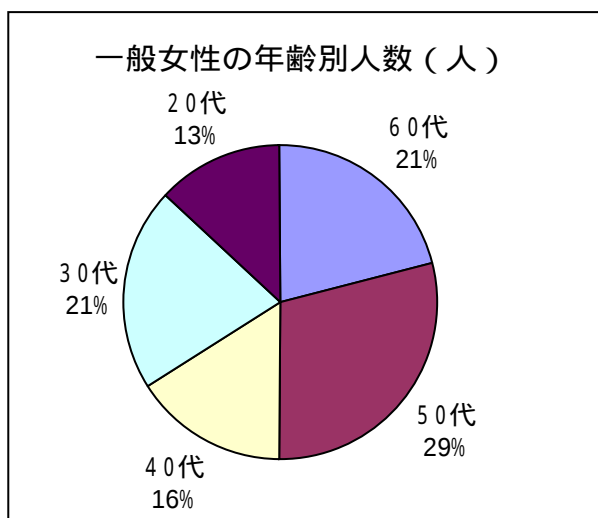
これらを踏まえ、大阪国道事務所では、生活者の視点を代表する“女性”の意見や感性を公共事業に取り入れ、住民との連携・協働を深めていくと同時に道路利用者マナー向上の対策として生活と密着した「母親教育」を行おうとの発想から、「女性によるみちづくり」ワークショップを設立した。

2. 「女性によるみちづくり」ワークショップ

2.1 ワークショップ概要

ワークショップの設立時に道路事業へ女性の視点を反映する手順・手法の検討をするために一般参加者の意見を収集した。その結果、「事務所が何をしているのか分からない」という意見が多かったことから、平成15年度のテーマは「女性による一般の人にわかりやすいパンフレットづくり」とし、平成15年3月の設立以降、ワークショップや現場見学など計7回開催した。

- 一般女性を公募（約30名が登録）
- ワークショップの運営は若手女性職員が担当
- 地域づくりの学識経験者をアドバイザーに起用



ワークショップ一般参加者の特徴

2.2 ワークショップの流れ

～ ワークショップの流れ ～

第1回 ワークショップの設立

行政機関発行のパンフレット類について意見収集（H15.3.28）

第2回 目的・役割の確認

大阪国道事務所の事業説明と事業概要についての意見収集（H15.6.24）

第3回 パンフレットの内容を考える

女性係員によるプレゼン。テーマは環境、バリアフリー、みちづくり。各班でテーマについての意見交換。（H15.9.1）

第4回 現場見学会

○御堂筋見学○共同溝○近畿技術事務所バリアフリー体験コース（H15.10.3）

第5回 パンフレットの内容を考える！！

内容の絞込みを行う（H15.12.2）

第6回 最終チェック

紙面の構成・編集をおこなう。パンフレット作成の最終段階！（H16.2.3）

第7回 最終ワークショップ

仮刷りパンフレットで、最後の微調整をみんなで行いました！（H16.3.19）

第1回目、第2回目の意見交換により、道路事業について分かりやすいパンフレットをつくるには、生活に密接した内容で取っ付き易いテーマに分けて、話し合うほうが良いという意見から、第3回以降は 環境 バリアフリー 御堂筋の3班に分かれ、意見交換、パンフレットづくりを進めていった。



第4回 現場見学会



第6回 ワークショップ

2.3 ワークショップ所内周知活動

毎回ワークショップを開催した後、毎週所内向けにワークショップ通信を発信し、所内全体への周知に努めた。



ワークショップ通信



大阪日日新聞
H16.4.11(日)朝刊

2.4 パンフレットの作成について

ワークショップでそれぞれのテーマについて意見交換し、その意見の傾向から編集の切り口を導き、具体的な構成へと入っていった。こうして7回のワークショップの末、パンフレットが完成した。



2.5 パンフレットの配布

完成したパンフレットは、公共施設や女性が良く集まる場所など参加者から提案・紹介のあった施設にて配布することとした。

- 参加者の職場、参加者の子供が通う学校
- 地下鉄、女性専用病院、百貨店
- 自治体の情報コーナー、図書館、道の駅等



3月19日にワークショップを行った

「大阪府立総合センター」にも贈呈

3. 平成15年度ワークショップの取り組みによる効果

- 一般参加女性の道路行政への理解が深まるとともに、参加者による口コミで道路事業者の取り組みが紹介され、相乗的な広報効果があった。
- 作成されたパンフレットは女性らしい工夫がされ、わかりやすいと好評であった。



バリアフリー編



環境編

4. 最後に

平成15年度の「女性によるみちづくり」ワークショップでは、パンフレット作成という目標は達成できたが、一般の方が知りたい情報、道路管理者が伝えたい情報をすべて網羅しているわけではない。今後とも知りたい情報を適切に伝えていくと同時に伝えたい情報を理解してもらうための工夫が必要である。

平成16年度は平成15年度と同様に約30名程度の女性を一般公募し、様々な道路の現場に出向いて、女性の視点での現場の評価を情報誌として取りまとめ、広く配布することで一般市民の道路への関心が高まることを期待している。

パンフレット作成における工夫

〈全体〉

- 幅広い年代に見やすくするため、サイズはA4サイズ・カラーとした。
- 問い合わせの窓口を明記した。
- 表紙は、思わず手に取りたくなるような、柔らかいタッチのイラストとした。
- パンフレットをラックに入れたときにもタイトルが見えるようにした。
- 全体的に、イラストや写真を多く盛り込んだ。
- なるべく難しい用語、専門用語は避け、わかりやすい表現にした。

〈御堂筋編〉

- 御堂筋に行ってみたくなるような“美しい”写真を採用し、撮影場所を掲載した。
- 参加者のお薦めスポットを掲載した。等

〈バリアフリー編〉

- 生活の中で、そのときは気になるが、普段はあまり気にかけていないちょっとしたバリアを例示し、バリアフリー問題に興味を持つようにした。
- バリアフリー度のチェック表をつけた。等

〈環境編〉

- 環境問題が身近な問題であることをわかりやすく紹介した。
- 私たちにできる「地球を守る大作戦」を記載した。
- 騒音レベルの“うるささ”が分かるように身近な音の騒音レベルを記載した。等